

## 【全体概要】

- 近年、7～8月の高温により夏季の施設野菜栽培では生育や収穫の遅延などの高温障害が発生し、生産が不安定となっている。
- 既存の遮光資材のみでは昇温抑制効果が十分ではなく、葉水等の散水処理は昇温抑制効果は高いが自動化が進んでいない。
- 散水の自動化や遮熱資材の塗布などの昇温抑制技術を組み合わせ、夏期の施設野菜の生産安定を図る。

## 新品種・新技術等の概要

○ICTバルブとミストノズル等を活用した気化熱利用  
・温度センサー機能を搭載したICTバルブを用いてミスト散水することにより、安価に気化熱を利用した昇温抑制を図る。

○遮熱資材塗布や昇温抑制フィルムの展張  
・熱線を選択的に遮り、光合成に有効な光は透過させる資材のハウス屋根面への塗布や、熱線を遮断し、可視光を通すフィルムや被覆資材を展張することで、遮光率を上げずに施設内の気温上昇を抑える。

○屋根散水  
・ハウス屋根面にかん水チューブを設置して散水を行い、気化熱によるハウス内温度の上昇を抑制する。



ICTバルブ



ミストノズル

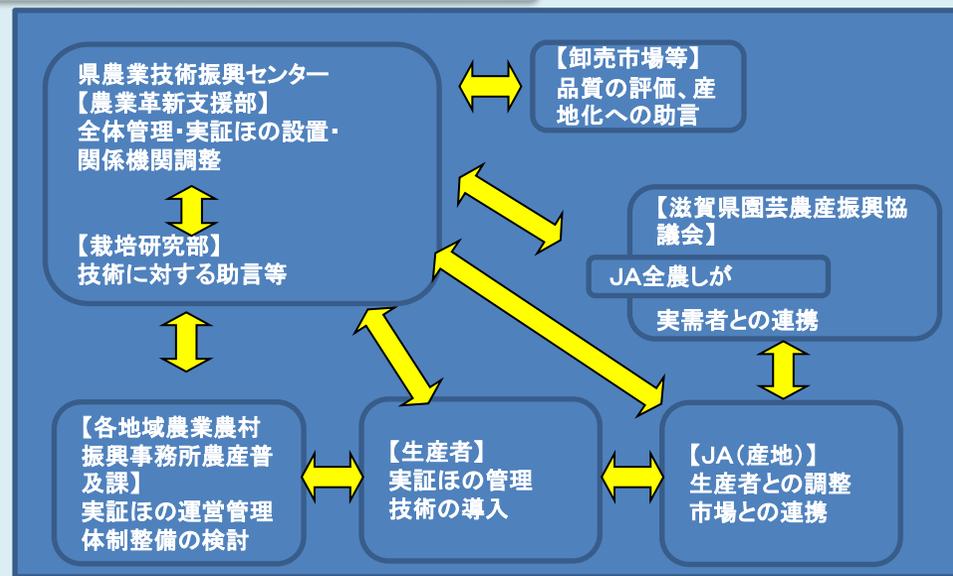


熱線吸収剤入り遮光資材

## 主な取組内容

- ICTバルブを活用した安価なミストノズルやミストチューブによる気化熱利用技術、遮熱資材塗布技術、屋根散水技術、熱線吸収フィルムの展張について実証ほを設置した(R3 4か所、R4 計3か所)。
- 実証ほを活用した現地検討会や推進大会を開催し、生産者や関係機関と技術の効果や課題について検討を行った。
- 県内外産地の情報収集として、県外先進事例の調査や事業者との情報交換を行った。

## 実施体制図



## 実績と今後の展開

- 昇温抑制技術の導入により、前年比4割増収の事例もあり導入面積は増加している(キュウリ・トマト R3:6, 971㎡ → R4:8, 071㎡)。
- また、イチゴ育苗ハウスへの導入など波及効果も見られている。
- ICTバルブとミストノズル等を組み合わせた散水技術は、低コストで昇温抑制効果が高く、熱線を遮断する被覆資材は照度の低下を少なくとも昇温抑制効果が確認された。
- 生産者ごとに導入に適した技術は異なるため、実情に応じた技術の選定ができるよう、研修会での説明を重ねながら、高温化に対応した産地づくりへの支援を進める。